

平成30年度以降の胃がん検診等の見直しの考え方について

平成30年度以降に区が実施するがん検診等のうち、胃がんハイリスク診査及び胃がん検診を、以下のとおり見直すことを考えている。

1 胃がんハイリスク診査について

胃がんの発生リスクを知り効果的に胃がんの予防や早期発見を図ることを目的として、平成25年度から40・45・50・55・60・65・70・75歳の区民を対象として胃がんハイリスク診査を実施してきた。実施から5年経過することに伴い、40歳以上の全区民を対象として胃がんハイリスク診査を実施する。

胃がんハイリスク診査は、40・45・50・55・60・65・70・75歳の区民に対しては受診券を送付するが、その他の年齢の区民については申込制とする。

(1) 実施対象

年度末現在、40歳以上で、過去に胃がんハイリスク診査を受診したことの無い者とする。受診は生涯1度に限る。

(2) 実施方法

中野区医師会に委託して医療機関で実施する。

(3) 自己負担金

500円

(4) 精密検査等について

総合判定結果がB・C・Dで胃がんリスクが高い者は、保険診療によるピロリ菌除菌や胃部内視鏡検査等の精密検査を受診するよう医療機関より指導を行い、受診後も医療機関と相談のうえ、定期的に胃部内視鏡検査を受診するように勧奨する。このため、従前から実施している精密検査の未受診者に対する受診勧奨を徹底する。

2 胃がん検診について

胃がんハイリスク診査の結果がA判定であった者の中に、一定程度の偽陰性の者がいることから、A判定の者を対象として胃がんエックス線検査を実施する。

(1) 実施対象

年度末現在、40歳以上かつ前年度・当該年度の胃がんエックス線検査未受診者で、胃がんハイリスク診査の判定がAの者とし、申込制とする。

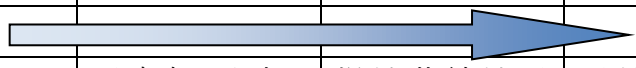
(2) 実施方法

区が契約する検査機関の検診車を区内施設に配車して実施する。

(3) 自己負担金

1,000円

(参考) 胃がんハイリスク診査結果と胃がん発生リスク等との関係
 ※血清ペプシノゲン値による胃粘膜萎縮度とピロリ菌感染の有無によりリスクを判定する。

総合判定	異常なし	要精密検査			
	A	B	C	D	
血清ペプシノゲン値	陰性	陰性	陽性	陽性	
ピロリ菌抗体値	陰性	陽性	陽性	陰性	
胃がん発生のリスク	低				高
胃の健康度	胃粘膜萎縮の可能性は非常に低い。	胃潰瘍に注意。胃粘膜の萎縮がない、または軽い。	慢性萎縮性胃炎。胃粘膜萎縮が進んでいる。	胃粘膜萎縮が進み、ピロリ菌が胃に住めずに退却。	
内視鏡検査の受診頻度	胃に症状のある人は受診。	定期的に保険診療により胃内視鏡検査を受診、具体的には医師と相談。			
ピロリ菌除菌	不要	内視鏡検査を行い胃の粘膜の状況を確認し、ピロリ菌検査が陽性の場合には除菌が必要。			